



# なきごえ



1986

12

大阪市  
天王寺動物園協会



小西正己

小さなパトローネにつめられた甲虫。「旅先で見つけたので」と差し出す人は遠慮気味だが、頂くボクは心にいつもメルヘンふうの弾みが甦える。



この夏、高校女子水泳のコーチとして中国

に行ってきたI先生が「プールサイドで採った」と持ち帰ってくれたのはクワカミキリであった。が、せっかくのお土産も触角はちぎれ首はぶらぶら。「ケースに入れたままだったので」先生は恐縮したが、ボクはその虫にまつわる幼時の一件をほのかに呼びおこされていた。

そうだ、天王寺周辺でさえ三駅ほど南にはずれるとまだ桑畑の点在していた時代、この虫との初対面は小学校に通う途上のことであった。道路から少し入りこんだ畑に植わっていた数本の桑の木。その幹にへばりついて、彼らはいたのである。そのころ国防色とはやされた薄緑のファッションをまとった彼らをはじめて見つけてボクは興奮した。何にせよカミキリは黒いゴマダラより他に知らぬ頃だから、感動の度合いも尋常ではなかったはずだ。それに4ひきもいる。慎重につまみあげたボクは彼らをすばやく筆箱に投げ入れて胸をなでおろした。半信半疑の有頂天であった。こんなラッキーなことがあるのか、それはボクが人生を神サマに感謝したはじめての体験だったように思える。

授業がはじまっても気が気でなかった。ボクは筆

箱の中を何度もぞいては彼らの安否をたしかめた。ところが幾度目かに、不肖の一びきが急にブーンと飛び出して女の子の髪にとまったため予期せぬ悶着がおきてしまった。ヒューッ、仰々しい悲鳴に腹が立ったが、いぶかしげな先生の視線に見すえられてこんどは自分がベソをかく結果になってしまった。「何をしとるか」先生は大きな手で筆箱から残る三びきをガバッとつかみ出した。が、狭い所で閉じこめられたカミキリどもは青い軟便をたっぷりと中に排出していたから大変である。手をベトベトに汚された先生はあわてて彼らを力いっぱい床にたたきつけてしまった。

その時のカミキリの運命がどうなったかは定かでないが、翌日から通学途中の採集は厳禁された。日ならずして、大罪を犯す恐怖にかられながら立ち寄った桑畑にカミキリはもういなかった。

クワカミキリはヤナギ・イチジクなども食害するからたくさんいたはずなのに、奇妙にもその後のボクの観察記録には記載がない。ふと、まぶたの中に未見の中国の景色と遠い日の日本の養蚕風景が重なって写し出された。

秋になって、長男を動物園で遊ばせたI先生は、夏の帳尻をあわせるようにまたカミキリムシを採ってきてくれた。こんどのはウスバカミキリの完全品であった。



「虫でもよい」というご依頼だったので書かせてもらった。動物を愛する人はきっと虫も好きだろうし、カミキリムシだって前胸背板をこすってギィーギィーと『なぎごえ?』を出すからである。いや、東京多摩をはじめ世界各地の動物園にはレッキとした昆虫園もあるのだから弁解は要るまい。

(大阪市立西商業高等学校長)

なぎごえ12月号もくじ

動物と私 ..... 2
“オーストラリアの奇トカゲ入園” ..... 3
動物園グラフ・動物園日記 ..... 4・5
オランウータンの出産と人工哺育① ..... 6・7
今年のカモ類の繁殖について ..... 8・9
ケンちゃんの好きやねん動物園 ③ ..... 10
動物園ニュース ..... 11

表紙の写真説明

“シロカケイ”(Crossoptilon crossoptilon)

中国東部の高山地帯に住むキジであるシロカケイは大きな群を作って暮しています。そして森の中でエサを探します。飛ぶことはめったに無く敵から逃げる際でも走って逃げるが多いそうです。

(撮影：長瀬 健二郎)



“オーストラリアの奇トカゲ入園”

10月16日、マツカサトカゲが入園しました。このトカゲはオーストラリア南部に分布しますが、尾が短く、頭とそっくりな形をしているので、どちらが前か後ろかわからない奇妙な姿をしています。

(撮影：野口 秀高)

# 動物園グラフ

## “ショウガラゴの双子の赤ちゃん”

昨年10月に引き続き、9月4日ショウガラゴに双子の赤ちゃんが生まれました。生後間もなく巣から出、その可愛い姿は入園者の人気を集め、夜行性動物舎のショウガラゴ舎前には何重もの人垣ができた程です。今月は誌上でその可愛いらしさを再現してみました。

(撮影：大川光雄)



生後4日目。  
昨年生まれのお兄ちゃんにイタズラされて、  
クスグッタイヨー!!



生後6日目。  
お母さんと一緒。まだ毛並みも短く耳も親程大きくありません。

### 10・11月の動物園日記

- 10/11. シマウマの子の検便を行ないました。
- 10/12. 冷房舎で展示していた3種のペンギンを、屋外飼育展示場に移動させました。
- 10/13. 右翼を骨折したハリオアマツバメを1羽保護しました。近畿地区動物園獣医師勉強会が行なわれました。
- 10/14. 盲学校2校の触察がありました。
- 10/15. ヒナで保護され成鳥になったキジバトを1羽放鳥しました。
- 10/17. トラツグミを1羽保護しました。

- チンパンジー舎の暖房を始めました。
- 10/19. 秋の動物園まつりが開幕しました。第18回動物のお話とスライドの会「キリンのお話」がありました。楽しい動物映画の会を1時間にわたり、レクチャールームで開催しました。
- 10/20. グラントシマウマの“ノリコ”の出産が近いようです。9月生まれの子ショウガラゴの子供2頭の個体識別のために、耳に入れ墨をしました。
- 10/22. 昭和61年度第2回近畿ブロック動物園技術者研究会が甲子園動植物園で開催され、当園からは2名参加しました。



生後6日目。  
足どりもまだおぼつかなく、お母さんも心配気です。



生後30日目。  
2頭そろって。どこか往年の人気者グレムリンを思い出させます。



生後45日目。  
お母さんと一緒にポーズ。でも、どこか不安らしく両手でお母さんの頭と耳をにぎっています。



生後60日目。  
まだまだお母さんに甘えたい赤ちゃんです。



昨年10月生まれのお兄さん(後方)と父親。

- 10/23. 同居がうまくいくように、ハクビシンの子2頭とその父親とのオリ越しの見合を始めました。
- 10/24. キーウィ、ハリモグラ、ハリネズミの体重測定を行ないました。
- 10/25. アカカンガルーのメス“コリン”の袋の中から子供が顔を出すようになりました。
- 10/26. 楽しい動物映画の会が行なわれました。
- 10/27. カリフォルニアアシカ全頭に、ビタミン剤を与えました。
- 10/28. グラントシマウマの“ノリコ”がメスの子1頭を出産しました。また、ヌートリアが8頭の子供を生みました。

- 10/29. 夜行性動物舎の暖房を開始しました。前日に生まれたシマウマの子の哺乳を確認しました。
- 10/30. リュウキュウイノシシの子供1ペアを井の頭自然文化園に送り出しました。
- 10/31. 今年ふ化したワライカワセミの元気がないため、栄養補給を行なうことにしました。
- 11/2. ムササビのメス“モモコ”が胃腸障害で元気・食欲不振となったため、さっそく治療を始めました。楽しい動物映画の会を開催しました。
- 11/3. シマヘビの皮下腫瘍の手術を行ないました。
- 11/4. コヨーテが右前足裂創のため手術しました。

# オランウータンの出産と人工哺育①

なきごえ22(12),1986

## § オランウータンの繁殖作戦

私がオランウータンの飼育担当になった昭和46年、天王寺動物園にはウータン(当時12歳)、リンキー(当時6歳)、そしてユキ(当時4歳)の共にメスばかり、3頭が飼育されていました。しかし、これでは当然繁殖が望みませんので、この国際保護動物の繁殖を図るため、当時2頭のオスを飼育していた神戸王子動物園との間でオランウータンを交換する話が進められました。そして翌47年8月、当園のリンキーと王子動物園のオス(後にブルと命名、当時4歳)の交換が行われました。数年後まず手始めにブルとウータンの同居が試みられましたが相性が悪いのか、すぐにすごいケンカになり、成獣になっていたブルがウータンに噛みつくなどしたため、同居させることはあきらめざるをえませんでした。もう1頭のメス、ユキも繁殖年齢に達しないうちに、若くして死亡したためブルとは夫婦



入園直後のサツキ

にできませんでした。昭和48年、生後2年にもならないオランウータンが入園しました。サツキと名付けられたこのメスは入園時、栄養状態も悪く、体も貧弱な個体であったため、とにかく丈夫に育てることが精一杯で、とても将来子供を産めるようになるとは思いませんでした。しかし性格はおとなしく従順で、私にも良くなついてくれました。そしてサツキに昭和54年12月にやっと初潮がみられました。立派なメスに育てられたことがとてもうれしかったのか、その日のことを昨日のこことのようによく覚えています。

そして初潮がみられてから2年後の昭和56年1月1日、初めてブルと同居させました。心配したトラブルもなくスムーズに同居させることができ、交尾にも成功したようでした。しかし、1度同居させるとブルがサツキを離そうとしないため、別々に収容するのが一苦労でした。こうして同居、別居を何回か繰り返すうち、昭和58年、ついに待望の妊娠に成功したのです。

## § 最初の出産

サツキは私に大変従順なオランウータンであった

ため、妊娠から出産に至るまでの経過については詳しく観察することができました。

サツキの性周期は平均28.6日、生理の出血は毎回確認できました。規則正しく認められた生理がないのに気がついたのは昭和58年9月に入ってからでした。5月28日から8月15日までブルと同居させていたためその間は生理の確認ができませんでしたが、ブルと分れさせて1ヵ月経っても生理がなかったのです。早速、サツキの尿の検査が始まりました。最初の尿検査では妊娠陽性と判定され胸が高鳴りましたが、その後2ヵ月にもわたる検査では尿中に妊娠を証拠づけるホルモンが微量しか検出されず、裏切られたような思いがしました。

12月に入ってから尿中ホルモンの定量を続けると共に超音波を使って聴診を試みたりしましたが、妊娠確定にいたりませんでした。私も内心いら立ちどおでしたが、担当の宮下実獣医からオランウータンの場合、このわずかな量のホルモンでも妊娠陽性の可能性が高いといわれ、期待をもち続けました。

母体の栄養保持のため12月からはカルシウム剤と肝油の投与も開始しました。受胎予想日から考えて妊娠後期に入ったと思われる昭和59年2月1日、動物病院でサツキの腹部のレントゲン撮影を行いました。下腹部に胎児の頭らしいのが写っていると聞いた時はまさに天にも昇る心地でした。その日のうちに宮下獣医がこのレントゲンフィルムを持って市民病院産婦人科の田中文平先生のもとを訪れ、胎児の確認、異常の有無、出産兆候、出産準備などについて相談してきました。オランウータンの妊娠期間は240~275日なので、出産予定日は1月末から2月末、もういつ産んでもおかしくない時期に入っていました。

緊張の続く中、サツキだけは平静に日をおくっていました。2月22日夕方、サツキのようすがいつもとちがうのに気がつきました。出産が近いのではと思い、私と宮下獣医が泊まりこむことにしました。日付がかわったばかりの23日午前0時すぎ、サツキはゼリー状のものを排泄しました。午前4時、かなり神経質になり、私に対しても威嚇のような行動を示しました。午前6時15分、破水がおこり、陣痛がしばらく続いた後7時50分分娩しました。しかし初めてのお産にサツキも興奮したのか、新生児を強く抱きしめるあまり、子供は圧死してしまいました。私達が手出しのする間もないうちの悲しいできごとでした。この出産までの半年間、詳細な観察を続け、検査に一喜一憂していたのが、実にあっけない幕切れでした。私も、そして宮下獣医もあまりの悔やしさに涙がとまりませんでした。

## § 2度目のおめでた

最初の出産の失敗は私にとっても大きなショック

なきごえ22(12),1986

でしたが、日が経つにつれてもう1度ががんばってみようという挑戦意識が高まってきました。サツキの体力回復のために1年待ちました。そして排卵日と想定される日ごとにブルと同居させましたがなかなか受胎しませんでした。しかし昭和60年8月13日の生理を最後に生理がとまりました。サツキの性周期から考えて9月1日~3日頃に受精したものと考えられました。2ヵ月経過してから尿中ホルモンの検査が始まりました。尿中に微量のホルモンが認められたものの、100%妊娠とはいいきれず、前回と同様



父親のブル

レントゲン診断に最終的に頼ることにしました。妊娠後期に入った昭和61年4月16日、動物病院でレントゲン撮影を行いました。フィルム現像中のほんの数分間、私にとっては入試の可否を待つ受験生のような厳粛な気持ちでした。結果は $\bigcirc$ 。

さあ、前回の失敗をくり返さないためにもサツキに育児の教育をほどこさなくてはなりません。ヌイグルミを抱かす練習や出産、育児のビデオを見せることなどが検討されましたが、とりあえず手近にあったゴリラの出産、育児ビデオを見せることにしました。

4月23日、2度目のレントゲン撮影で胎児の状態を確認した後、動物病院の2階でビデオを見せました。動物病院に通い慣れたサツキでも、この2階の討議室に上がるのは初めてのため、やや神経質になっていました。すぐにテレビの画面にゴリラの出産シーンや育児風景が映りましたが、サツキはこの画像にほとんど注意を払おうとはせず、せっかくの試みもムダに終わってしまいました。

出産予定日は6月初めから末頃の間と考えていたのですが、前回とちがって何の兆候もなく、4月27日早朝出産しました。当日は私は休日、代勤者の大野尊信係員が勤務についていました。朝8時頃、大野係員がオランウータン舎に入ってサツキの部屋をのぞいたところ、床面に数ヵ所、血痕が散っているを見つけました。予定日より1ヵ月以上も早い一瞬流産かと思ったそうですが、寝室の隅に座っているサツキの腕の中にまさしく生まれたばかりの

黄金色の毛に包まれた赤ちゃんを発見しました。大野係員はその赤ちゃんが健全であることを確認した後、私へ出産の連絡をくれました。

私はとるものもとりにあらず、動物園へ急ぎました。サツキは私の顔を見た途端、落ちつきを失って子供を抱いたまま天井にぶら下がってめまぐるしく動きまわり始めました。とにかくサツキを落ち着かせなくてはと、毛布を1枚与え、私は外に出て見守ることにしました。そうすると、自分も子供も毛布でくるむように隠し、やっと安心したのか、私がそばに近づいても興奮しなくなり母子を十分観察できるようになりました。その時にその子供は男の子であることも確認できました。次に私に与えられた仕事は彼女が子供に授乳するかどうかを確認することでした。授乳を確認でき、その量が十分あれば、あとは母親に全てをまかすことが、一番いい方法であることは言うまでもありません。それでも他園の例では、人工哺育に切り換えなければならなかった所が多く、気にかかるどころでした。24時間たちました。まだ哺乳確認できません。時々子供は乳首附近に口をもっていくのですが、サツキの乳房はまだ張ってきてもおらず、ミルクがでているようには見えませんでした。その時点で人工哺育に切り換えることも検討し、他園の情報収集を開始しました。



毛布で体をつつんだサツキにジュースを与える私

ツキの乳首に吸わせようと何回か試みましたが、サツキに拒絶されてしまいました。4月29日朝、出産後50時間たった時点で、人工哺育にすることが決定されました。サツキから子供をいかにして取りあげるか、その悪者役は宮下獣医と大野係員があたってくれました。鎮静剤と麻酔薬の注射でその作戦はすみやかに進められ、午前10時21分、子供は私の手に渡されました。

(つづく)

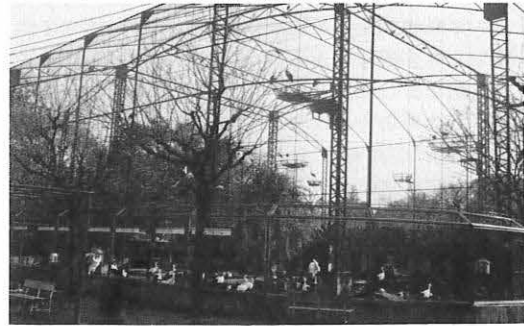
(飼育課：大東孝司)

# 今年のカモ類の繁殖について

なぎごえ22(12),1986

## ◆はじめに◆

当園、水禽放養舎は面積743平方メートルで高さ13メートルあり、中央に池を配し、シュバシコウ、



放養舎全景

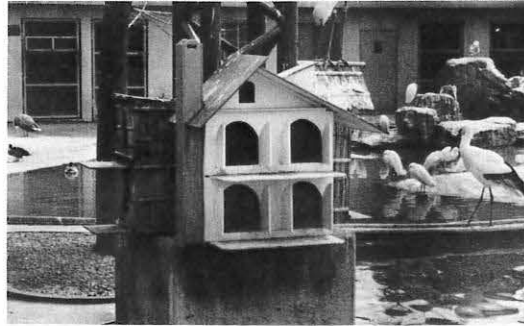
ガン、カモ等41種199点を雑居飼育しています。毎年、シュバシコウ、アオサギ、コサギ等は順調に繁殖していますが、ガンカモ類の繁殖は、巣箱の数が少なかったり、

食卵されたり、孵化してもシュバシコウ等に食子されるなどしてカナダガン以外は自然繁殖には成功していませんでした。そこで、カモ類の増殖を図る為昨年より巣箱を約10ヶ所に設置しました。オシドリ、アカアシコガモ用の巣箱は



シュバシコウの親子

水面上、約150センチメートルに設け、アカハシハジロ等の巣箱は地上に設置しました。当然、自然孵化

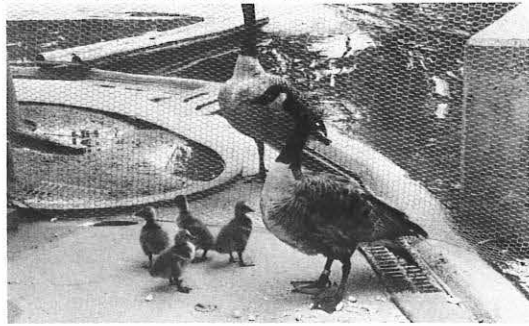


巣箱いろいろ

しても、シュバシコウ等に食子される為、カナダガン以外の卵は産卵後定期的に採卵し孵卵器で人工繁殖させる事にしました。

## ◆孵卵◆

立体式孵卵器(252卵入卵可能)を利用し、温度は37.8℃、湿度は75%を保つように努力しました。今

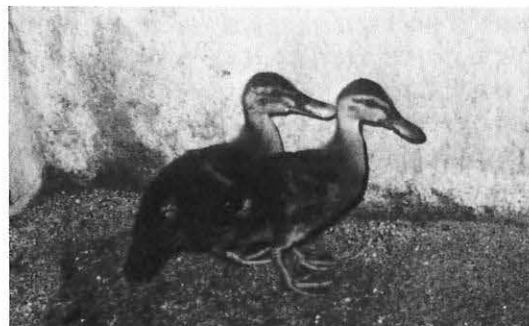


カナダガンの親子

年の人工孵化では非常に孵化率が悪く、特に孵化寸前の死ごもりが多かったのですが、その理由はいくつか考えられます。温度、湿度、放冷時間、放冷回数、転卵回数、親鳥の栄養状態等、これらの問題点は今後の課題として残されています。来年度は、今回以上の孵化率を上げたいと思っています。

## ◆育すう◆

孵化後一昼夜を孵卵器内で過ごさせた雛は、平面式育すう箱へ移し、育すうを始めます。保温はヒヨコ電球を用い、適温を調節しておく、サーモスタットで自動的に維持できます。孵化後5日齢までは37℃、6日齢から10日齢迄は33℃、11日齢から20日齢迄は30℃に保温。外気がこの季節、最低温度でも25℃あるので20日齢で廃温にしました。

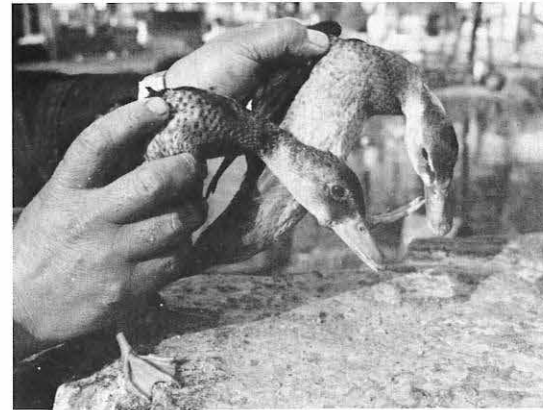


アカノドカルガモのヒナ(右)(日本初の繁殖)、(左)はカルガモのヒナ

カモ類は鶏類に比べ、足が弱い為育すう箱の床には麻袋を敷き、毎日取り替えました。飼料は10日齢迄は、ヒナ用チックフード、青菜、パン、ミルクウォーム、卵黄、水草を給与し脚弱を防止するためカルシウム剤を添加しました。

10日齢以後30日齢迄は、チックフード、中雛飼料、青菜、パン、水草、カルシウムを給与し、30日齢以後は放飼場へ放した時に困らないよう、成鳥と同じ飼料である白菜、養鶏用配合飼料、パン、水禽用ペレット、カルシウムを給与しました。

なぎごえ22(12),1986



アカアシコガモのヒナ(日本初の繁殖)

10日齢まで育すう箱で育て、11日齢から30日齢迄は、プール付きの室内で、31日齢から60日齢迄は放飼場の一面をフェンスで区切った育すう場で、屋外の水禽達に慣らせるために収容しました。60日齢頃になると個体識別のために脚帯、翼帯を装着して放飼場へ放鳥しました。今年、無事育成し、新しく水禽放養舎に仲間入りした水禽は下の表に示す9種45点です。(飼育課：三浦正明)

## 昭和61年度産卵数

鳥名	産卵羽数	産卵数	無精卵	有精卵	中止卵	孵化数	死亡数	育成数	孵化率	有精卵における孵化率	育成率
									%	%	%
シュバシコウ	11羽	?	?	?	?	21羽	11羽	10羽	?	?	?
カナダガン	3	23	18	5	3	2	0	2	9	40	100
アカアシコガモ	2	63	29	34	18	16	5	11	25	47	69
アカハシハジロ	2	28	18	10	5	5	4	1	18	50	20
オシドリ	4	41	16	25	15	10	1	9	24	40	90
アメリカオシ	1	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0
マゼランガン	1	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0
アカノドカルガモ	1	8	1	7	4	3	1	2	12	43	67
カルガモ						8	1	7			
ハイイロヤケイ	1	1	0	1	0	1	0	1	100	100	88
ウミネコ	1	2	0	2	1	1	0	1	50	50	100
タンチョウ	1	1	(破卵)								
ペリカン	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0

## 水禽放養舎収容動物( )内は本年生産分

コハクガン	1	アカハシハジロ(1)	4		
ロウバシガン	2	アカアシコガモ(11)	17	タンチョウ	2
インドガン	7	コガモ	4	ホオジロカンムリヅル	2
エジプトガン	1	アカノドカルガモ(2)	4		
マゼランガン	1	カルガモ(7)	7	モモイロペリカン	1
ミカドガン	1	アカハシリュウキュウガモ	11	カワウ	1
ハワイガン	1	シロガオリュウキュウガモ	2		
カナダガン(2)	9	ミカツキハシビロガモ	1	ウミネコ(1)	4
ネズミガシラアカツクシガモ	1	キンクロハジロ	1	カモメ	1
アカツクシガモ	4			セグロカモメ	
ヒドリガモ	8	シュバシコウ(10)	39	ユリカモメ	2
オナガガモ	8	アオサギ(1)	9		
オシドリ(9)	19	コサギ(1)	10	ハイイロヤケイ	2
トモエガモ	4	ベニハラサギ	1	ウスズミハッカ	2
アメリカオシ	1	インドトキコウ	1	ハゲカオホウカンチョウ	1



# ケンちゃんの好きやねん動物園 マンガ 松葉 健

なきごえ22(12),1986

天王寺動物園ではこし4月27日生まれたオランウータンの名前もサブちゃん決めて動物園の人気者です。そこで飼育係のおじさんにサブちゃんの1日のすごし方をみせてもらいました。



朝7時頃寝床のオリから出して体重と体温を計ります。それから離乳食をたべさせます。このごろは食欲旺盛です。

飼育係の大野さん



いまのところ毎日オムツを12.3回はとりかえるそうです。人間の赤ちゃんにそっくりでした。



午前9時半になるとお客さんが入ってくるので外のオリに移ります。新しい明るい部屋です。毛布の下にはヒーターもいれて暖かくしてあります。



この部屋でバナナを食べるところなど皆さんに見てもらっています。

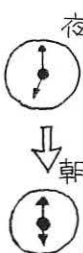
飼育係の大東さん

サブちゃんの食事は1日4回。閉園後中のオリにもどしてやります。夜は宿直なしで独りで寝ています。11月15日現在、体重は5.800gです。では、ねんねの時間です。オヤスミ。



この飼育室の隅にサブちゃんの寝床が置いてある

離乳食はベビーフード(果物のすりおろしたの、白身魚クリーム煮、親子がゆなど)です。それにミルクやバナナなどの果物を与えます。人間の赤ちゃんと同じです。忙しい中手があて日誌をつけたり、オムツの洗たくしたり……



# 1986年目次

なきごえ 256 付録

第22巻 ①~⑫は月数

通刊 245 ~ 256 号

表紙		写真撮影	
① ベンガルトラ	樽本 勲	⑦ キーウイ	大川光雄
② フェレット	農本武志	⑧ イエガラス	藪野幸司
③ ヨザル	大川光雄	⑨ オランウータン	大野尊信
④ アカヤマドリ	山下奉之	⑩ ジャガー	野口秀高
⑤ ドリル	長瀬健二郎	⑪ カケス	宮下 実
⑥ ディレビスカメレオン	中川哲男	⑫ シロカケイ	長瀬健二郎
<b>動物と私 P 2</b>			
① 内山 晨	動物写真家	⑧ 石濱恒夫	作家
② 田中光常	動物写真家	⑨ 伊吹太郎	タレント・チャンバラトリオ
③ 江戸家子猫	ものまね	⑩ ケント・ギルバート	テレビタレント
④ 宮嶋康彦	写真家	⑪ 浜口哲一	平塚市博物館学芸員
⑤ 大高成元	動物写真家	⑫ 小西正己	大阪市立西商業高等学校長
<b>お目見え動物 P 3</b>			
① こんなに大きくなりました	野口秀高	⑦ ハチドリ入園	長瀬健二郎
② すくすく育つ3つ子のトカラヤギ	藪野幸司	⑧ 残暑お見舞い申し上げます	農本武志
③ 険しい山もなんのその	榊原安昭	⑨ シマシマ模様のニューフェース	榊原安昭
④ 私はだれでしょう?	野口秀高	⑩ 大きな赤ちゃんです	大野尊信
⑤ キリンが入園しました	大野尊信	⑪ ショウガラゴに新顔ふたつ	森本委利
⑥ オランウータン誕生	長瀬健二郎	⑫ オーストラリアの奇トカゲ入園	野口秀高
<b>動物園グラフ P 4・5</b>			
① 天王寺動物園のトラの仲間たち	なきごえ編集部	⑦ 夜行性動物舎のキーウイ	大川光雄
② オセアニアの動物 II	野口秀高	⑧ 今年生まれの赤ちゃん達	野口秀高
③ 春を待つ動物	山下奉之	⑨ サマースクール特集	中川哲男
④ 夜行性動物の体重測定	森本委利	⑩ これがハチドリだ!	宮下 実
⑤ 日本の鳥	榊原安昭	⑪ このツルなんだ?	榊原安昭
⑥ 新サル舎オープン!	なきごえ編集部	⑫ ショウガラゴの双子の赤ちゃん	大川光雄

# 動物園ニュース

## § オランウータンの赤ちゃんお目見え

4月27日に生まれたオランウータンの赤ちゃんは人工哺育ですくすく育っています。これまで入園者の皆さんにはご覧いただくことができませんでしたが、秋の動物園まつりにあわせて10月19日、赤ちゃん専用の部屋が完成しました。新設された部屋は類人猿舎の一部を改造し、ガラス張りの運動場と寝室の2部屋があります。初めて多くの皆さんに見られるためたいへん心配しましたが、人見知りをすることもなく、パイプ製のジャングルジムにぶらさがり、愛嬌をふりまっています。離乳食もかなり食べるようになります。また、動物園まつりの期間中にペットネームを募集しましたので、選ばれたペットネームは来月号でお知らせします。

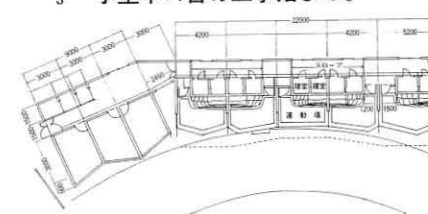


§ エミユウとリュウキュウイノシシ出園  
今春、繁殖した動物たちもそれぞれ大きくなり、動物の移動の季節となりました。今年6月25日に生まれた雄1頭、雌4頭のリュウキュウイノシシの赤ちゃんは、順調に成育し、そのうち雄、雌、各1頭が、東京の井の頭自然文化園へ10月30日に贈られました。また、エミユウは2月23日に1羽、26日に2羽人工ふ化し、2羽が成育しました。2羽とも成鳥とほとんど変わらないくらいまで成長し、北海道・旭川市の旭山動物園からの希望があり、11月8日に飛行機で送られました。

## § 新着動物

10月16日、マツカサトカゲ2頭の寄付があり、爬虫類舎にお目見えしました。マツカサトカゲはオーストラリア南部に分布する全長約30cmぐらいのトカゲで、うろこが大きく、ごつごつと松かさ状になっているのが特徴です。(3頁参照)

§ 小型ネコ舎の工事始まる。  
北園の小、獣舎は老朽化が著しく、建て替えが望まれていましたが、西側3分2の建て替え工事が11月



小型ネコ舎平面図

現在の飼育動物数  
(1986年10月31日現在)

哺乳類	13目	111種	435点
鳥類	20目	176種	642点
爬虫類	3目	33種	57点
計	36目	320種	1,134点

北園の小、獣舎は老朽化が著しく、建て替えが望まれていましたが、西側3分2の建て替え工事が11月

中旬から始まり、3月末の完成予定で、前面ガラス張りの5室と、掘り下げて見降ろす形式の3室のたいへん見やすい動物舎に生まれ変わります。完成後は小型ネコ類とジャコウネコの仲間を展示する予定です。

## § 秋の動物園まつり

恒例の秋の動物園まつりが、10月19日から11月9日までの日曜、祝日5日間に開催されました。期間中、北園ステージでは、午前中に大阪動物園ボランティアの皆さんによる紙しばいと動物クイズ、午後は幼稚園児のお遊戯、奈良佐保女子短大の皆さんによる手品・紙しばいと人形劇を行ないました。

また、レクチャールームでは今回初めての試みとして「楽しい動物映画の会」を行ない動物アニメーションや記録映画を上映し好評でした。

その他、ボランティアの皆さんによるスポットガイドや当園獣医師による動物相談も行われました。

## 北園展示

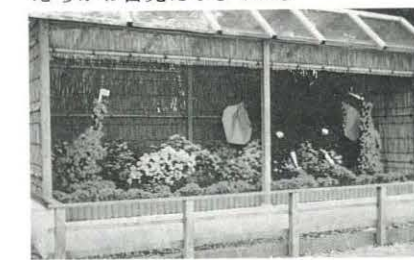
館では「WWF、滅びゆく動物たちを守ろう」と題して、ジャイアントパンダやオランウータンのぬいぐるみを展示し、WWF(世界野生生物基金)の活動を紹介しました。



§ 菊人形の動物登場  
北園事務所前の植物展示コーナーに菊人形の動物たちがお目見えしました。

## § 菊人形の動物登場

北園事務所前の植物展示コーナーに菊人形の動物たちがお目見えしました。



懸崖の菊を利用した動物は、ゾウ、フラミンゴ、タンチョウ、キウイ、マクジャクの5種で、なかなかの

できばえで、たいへん好評です。

## ● お知らせ

- 動物のお話とスライドの会  
12月7日(日) 動物園の一年あれこれ  
1月18日(日) 干支にちなむウサギ  
2月15日(日) 身近で見られる冬の野鳥  
時間：午後1時～2時  
於：北園レクチャールーム

## \* 休園日のお知らせ \*

動物園の休園日は毎月第3日曜日です。2月までの休園日は下記の通りです。  
12月15日(月)、1月19日(月)、2月16日(月)  
年末年始は、12月29日(月)～1月1日(木)まで休園いたします。  
開園時間は、9時30分から5時までで、4時に切符売止めになります。

## 特別寄稿

- ① 虎の郷土玩具 平田 嘉一 (郷土玩具蒐集家:「おもちゃ通信」編集発行人) 6・7P
- ① トラの話 朝日 稔 (兵庫医科大学教授) 8・9P
- ⑤ 大阪湾岸の渡り鳥 納家 仁 (財団法人日本野鳥の会大阪支部幹事) 6・7P

## 連載 P10

- ① 動物なんでも相談室⑫ 大野尊信・宮下 実
- ⑤ " ⑬ 大野尊信・村田行雄
- ⑨ " ⑭ 大野尊信・西川徹二
- ② 獣医室から 森本委利
- ⑥ " 森本委利
- ⑩ " 宮下 実
- ③ キーパーズ・アイ ⑳ 早川 篤
- ⑦ " ㉑ 早川 篤・野口秀高
- ⑪ " ㉒ 丸本 守 原田 勉
- ④ ケンちゃんの好きやねん動物園  
《脱出猛獣捕獲訓練》の巻 松葉 健
- ⑧ "   
《サマースクール》の巻 松葉 健
- ⑫ "   
《オランウータンの赤ちゃん》の巻 松葉 健
- ④ 天王寺の動物たち ㉓  
タスマニアデビル(上) 長瀬健二郎 6・7P

## 飼育観察記事

- ② フランソワルトンの誕生 原田 勉 8・9P
- ③ ラマの繁殖 農本武志 6・7P
- ③ ヤブツカツクリの繁殖 早川 篤 8・9P
- ⑤ 天王寺動物園の野鳥 榊原安昭 8・9P
- ⑥ リッキーと共に 芝野利夫 8・9P
- ⑧ 暑い夏をのりきる! 宮下 実 6・7P
- ⑨ 保護動物、この10年 森本委利 8・9P
- ⑩ ハチドリを飼育して 西川徹二 6・7P
- ⑪ ワライカワセミの飼育と繁殖 早川 篤 6・7P
- ⑫ オランウータンの出産と人工哺育 大東孝司 6・7P
- ⑫ 今年のカモ類の繁殖について 三浦正明 8・9P

## 動物園紀行・随筆・記録・その他

- ② 駆けまわりヨーロッパ動物園日記(下) 長瀬健二郎 6・7P
- ④ 中国の動物園・博物館を訪ねて 小谷信浩 8・9P
- ⑥ サル舎完成記念座談会 なきごえ編集部 6・7P
- ⑦ ウェリントン動物園におけるキーウィ(北島亜種)の繁殖について  
ウェリントン動物園 ロン・ゴウツワード 6~9P
- ⑧ マレーシア、タマンネガラ国立公園の野生動物 土谷正道 8・9P
- ⑨ サマースクールに参加して 編集 中川哲男 6・7P
- ⑩ ニーハオ!中国かた言、動物園訪問記 森本委利 8・9P
- ⑪ 第6次動物交流について 伊東重朗 8・9P

## 動物園日記 P4・5

①~⑫ 森本委利

## 動物園ニュース P11

①~⑫ 榊原安昭

## ごあいさつ P2

- ⑤ 大塚 幸太郎 (大阪市公園局長)
- ⑦ マイクル・リア (大阪ニュージージーランド総領事館総領事)

## ゆとり満喫、信頼のカード。



ショッピングから海外旅行まで、  
1枚のカードでワイドにご利用いただけます。  
近鉄がDCおよびVISAと提携した便利な新カード。

### 近鉄グループカード (キップス) KIPS

◎国内・海外のDC加盟店すべてに通用。  
◎近鉄百貨店グループをはじめ、都ホテルチェーンなどでの  
ご利用にはいろいろな特典が。

近鉄百貨店 各店クレジットセンターへ  
お問合せとお申込みは

●アベノ店7階 ●上本町店10階 ●東大阪店本館 ●奈良店4階 ●西京都店1階  
(京都ファミリー)

# いま、フィルムは 頭脳をもった。



高画質時代をリードする  
はるかに美しく

## フジカラー SUPER HR

**カメラの大林**  
桜橋本店 ☎341-8091  
三番街店 ☎372-5031

●オールカラー

ひかりのくに 監修・阪口浩平 指導・宮武頼夫

# むし

くらしとかいかた

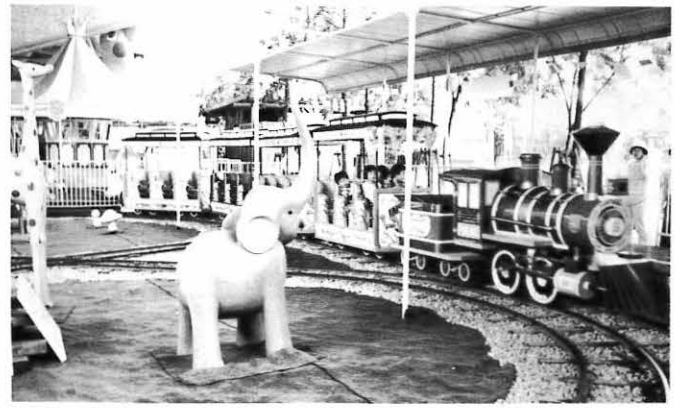
今まで、気にもとめなかつた自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。きっとすばらしいことに出会えるはずだ。

85変形 84ページ 580円

ひかりのくに株式会社  
〒543-8601 大阪市天王寺区上本町3-2



## たのしいのりものが待っています。



1人1回  
100円  
(1才まで無料)

団体割引  
(30人以上)  
……1割引

久竹娛樂株式会社  
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。



- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」  
①巻・20分(10本常備)
- 対象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申込先/当協会まで、電話かハガキでお申し込み下さい。

動物観察の手引に

## 天王寺動物園 ガイドブック

のご購読をおすすめします。  
(1冊¥450)園内各売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会  
〒543/大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201



動物文学会主宰 平岩米吉著

新刊

# 猫の歴史と奇話

(定価・2600円)  
A5判・260頁  
口絵挿画・113図

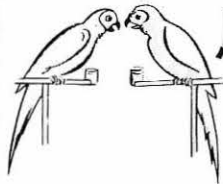
猫に関する古今東西の科学と文献を網羅し、しかも平易な文章で綴った猫の宝典。著者の三十余年にわたる収集研鑽の成果、ここに結実。

☆学術書でありながら、推理もののように愉しく読める猫の本  
☆架空の伝説は別に、猫の珍しい実話400余を収載

## 主な目次

- |                                     |                                       |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 第一章 猫の歴史<br>欧州は古代エジプト、日本は宇多天皇から近世まで | 第二章 猫股伝説<br>老猫化けてさまざまな怪異をなす           |
| 第三章 猫の報恩談<br>蛇を咬んだり、金を運んだりする        | 第四章 野性猫の存在<br>裏日本の山猫、離島の山猫、鬱陵島の猫の渡来など |
| 第五章 猫の奇話(上)<br>長命、多産、三毛猫などの形態の奇話    | 第六章 猫の奇話(中)<br>長距離の帰家記録や鼠を育てるなど不思議な行動 |
| 第七章 猫の奇話(下)<br>マタタビを媚薬とする奇妙な習性など    | 第八章 益獣としての猫<br>あらゆる角度から猫の生態と効用を探究     |

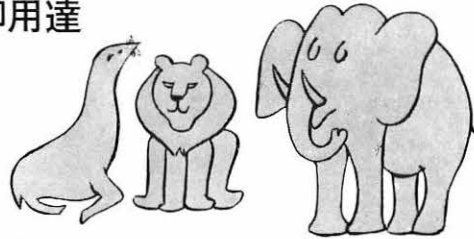
発行 動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話(03)717-1659・振替東京5-9800  
発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地 振替・東京4-165425



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

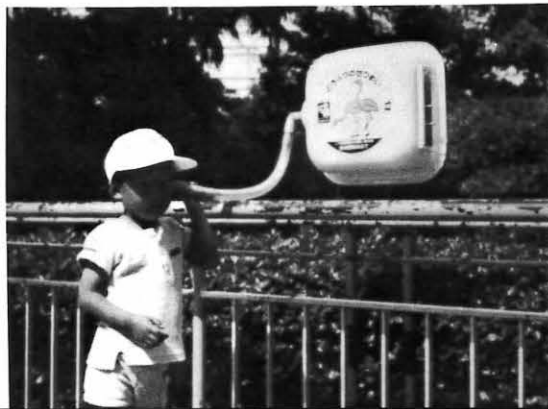
- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号 電話(078)221-8195(代)  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

たのしい動物のお話は、  
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数カ所にあります

関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 20円

## 動物園内での

## お食事、ご休憩は

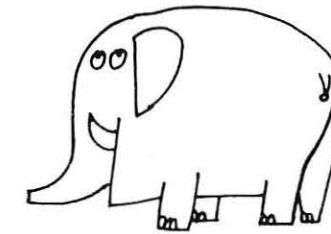
大阪市天王寺動物園内

## 中央売店

☎ (06) 771-0973



## 天王寺動物園内



## 南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74  
電話 (06) 771-7110番

## 園内でのお写真は…

## 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して  
おりますので説明  
に伺いました際は、  
よろしくお願い致し  
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。  
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社  
TEL 06-856-7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト  
の名コンビ



# 雪印ヨーグルト

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

自然の  
おいしさ

野生動物をみんなで守ろう

# WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に“WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー”が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設

お申込み、お問い合わせは——

社団法人 大阪市天王寺動物園協会  
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア商事部  
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。  
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。



●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?  
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 昭和61年12月10日発行 (毎月1回10日発行) 第22巻 第12号 (通巻256号)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部) 1,100円(送料共)

編集委員 (土井良彦/伊東重朗/藤野勝吉/樽本 勲/中川哲男/前田豊彦/宮下 実/長瀬健二郎/榊原安昭/森本委利)  
(大野尊信/山下奉之/農本武志/野口秀高/早川 篤/薮野幸司/堀 弘/大川光雄)

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 37823